



与路小・中学校 学校だより

瀬戸内町立与路小・中学校 学校だより「与路っ子」令和5年度10月号

与路っ子 10

「奄美群島日本復帰 与路島編」

校長 川井 功作

太平洋戦争後1946（昭和21）年1月GHQ覚書により、北緯30度以南の南西諸島は日本から行政分離され、往来と交易が断たれ、終戦から1953年まで奄美群島はアメリカ軍政下に置かれました。祖国から分断された奄美群島ではアメリカ軍政府に対する不満が爆発し、日本復帰嘆願運動が展開されるようになりました。当時の与路島では「与路島誌」（屋崎 一 著）に与路島での復帰運動が次のように記されています。

昭和26年2月奄美大島日本復帰協議会（泉 芳朗議長）が結成され与路島では百分に近い署名が行われた。同年8月泉議長が高千穂神社で復帰祈願断食が始まる。与路島では、学校に区民が集まり、本部通達文書が読み上げられ、直ちに断食祈願に入った。暫くして青年団代表から緊急動議が出された。その内容は「断食祈願の趣旨はお互い分かった。これからも度々行われるかも知れないが、与路島で何回祈願しても見る人もいない、それよりもこの時間は働いてその分を協議会本部へ運動資金として、醸金運動を起こし、少しでも送金しようではないか。」と言うものであった。この発言に賛同する意見が続出し思わぬ反響を呼び、醸金は順調に集められ本部に6回に亘って送金され、その総額は2万3千800円、当時としては大金で地元新聞にも「一集落から醸金が送られたのは与路と佐仁（笠利町）が初めて」と大きく掲載された。

また、与路島の大人だけでなく与路中学校生徒の復帰運動に寄せる情熱について、「名瀬市誌第一巻」に紹介されている。「鎮西村与路分校生徒会では、夏休みを利用して塩を炊き、荒地を開墾して芋を植えたりして貯めたお金のうちから、800円を贈りますから最後まで奮闘して下さい」と手紙を添えて復帰協議会へ届け、関係者一同を感激させた。

今年で祖国復帰70周年、決起集会や断食祈願がよく語り継がれているが、与路島民の心温まる歴史の1ページも忘れてはいけない。

与路校・与路島大運動会

9月23日（土）、与路校・与路島大運動会を実施しました。今年度も向野町議会議員、中村教育長をはじめとする教育委員会のみなさまに御臨席いただきました。また、今年度は海の子留学の保護者、ノエピアの関係者のみなさまも来島され、例年以上の盛り上がりとなりました。



芸術鑑賞教室事前WS

10月12日（木）、11月に計画されている芸術鑑賞教室の事前ワークショップが行われました。

今回の芸術鑑賞教室は、独立行政法人日本芸術文化振興会による事業の一環として「東京演劇アンサンブル」のみなさんが19名来島する大型公演です。

公演では、子供たちのステージに立つため、ワークショップでは、その事前練習を行いました。

本番当日は、地域のみなさんにも来島いただき、公演、子供たちの取組を見ていただく予定です。



教育実習



9月4～23日まで中学校で教育実習が行われました。教育実習生は数年ぶり、普段と違う雰囲気、学校が活気づきました。また、教師も教育実習生の指導を通じ、自身の教育実践を振り返る契機となりました。

小学校陸上記録会

10月11日（水）、瀬戸内町内の小学校の陸上記録会が行われ、本校からは競技出場・見学のために小学生全員が参加しました。競技には6年生が800M走に出場し、4位入賞を果たしました。小学3年生は、与路のグラウンドでは体験できない100M走に出場し、普段のトレーニングの成果を発揮しました。



おもな11月の行事

- 3（金）学習発表会 学校評議員会
- 7（火）中学校実力テスト
- 10（金）芸術鑑賞教室
- 15（水）町弁論大会・ショートスピーチ大会
- 18（土）町子供島口伝統芸能大会